

都市再生整備計画 事後評価シート
白鳥中央地区

平成24年3月

岐阜県郡上市

様式2-1 評価結果のまとめ

様式2

都道府県名	岐阜県		市町村名	郡上市		地区名	白鳥中央地区		面積	94.8ha			
交付期間	平成19年度～平成23年度		事後評価実施時期	平成23年度		交付対象事業費	1,872百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路：市道泉町線、道路：市道為真・二日町線、道路：一般県道美濃白鳥停車場線、道路：まちなか散策路(市道中下町線他3路線)、曾部地川ポケットパーク、案内看板整備										
		提案事業	流雪溝ネットワーク整備事業、長兵衛川親水河床、まちづくり推進会議										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	①長兵衛川親水広場			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業	①空き店舗助成事業 ②小水力発電 ③運動施設(相撲場)			①美濃白鳥駅から駅前通りを一体的に利用したトランジットモールの構想があるため。 ①他事業(郡上市他部署の補助制度、空き店舗利用促進事業)での対応に変更。 ②白鳥町市街地地区で地元NPO団体によるマイクロ水力発電等への事業展開を考慮し取りやめ。 ③他事業(財団法人日本宝くじ協会 平成20年度各種施設助成事業)で対応を行う。			①指標2に影響はあるが軽微であると判断し、目標及び指標は据え置く。 ①指標2に影響はあるが軽微であると判断し、目標及び指標は据え置く。 ②指標2に影響はあるが軽微であると判断し、目標及び指標は据え置く。 ③影響なし				
	新たに追加した事業	基幹事業	①市道泉町区内1号線(仮称) ②児童公園(仮称)			①整備することにより郡上市の北の生活拠点として、住み続けたいまち、コンパクトなまちづくりの目標達成に、より効果的であるため。 ②「住んでみたい・住み続けたいまち」の実現のために児童公園を再配置することにより、快適な生活環境を整備するため。			①指標1および2に影響はあるが軽微であると判断し、目標及び指標は据え置く。 ②指標2に影響はあるが軽微であると判断し、目標及び指標は据え置く。				
提案事業		①白鳥おどり屋形収納庫 ②(仮称)泉町区内1号線下水整備 ③事業効果分析調査			①白鳥おどり屋形収納庫をおどり会場に近い市街地中心部に整備することで、まち歩きが楽しめる空間への効果促すため。 ②都市再生整備計画内で掲げる「快適な生活環境の整備」による「住んでみたい・住み続けたいまち」の実現のため。 ③事後評価の作業が円滑かつ確実に進められるため。			①指標2に影響はあるが軽微であると判断し、目標及び指標は据え置く。 ②指標2に影響はあるが軽微であると判断し、目標及び指標は据え置く。 ③影響なし					
交付期間の変更	当初	平成19年度～23年度		変更		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	自動車交通量	台	2,894	H17	2,000	H23	モニタリング	評価値	×	あり なし	市道泉町線の整備などにより、駅前の通過交通抑制の効果は発現しているが、当該調査地点では、道路整備による交通円滑化による交通量増が含まれている。なお、本指標は、道路整備等による利便性向上効果として、交通量の増加が今後含まれると考えられる。	H24.7
	指標2	地区内人口減少率	%	3.10	H17	1.00	H23	1.50 (H22)	0.00	○	あり なし	総合的な住環境整備により地区内人口の涵養が図られ、人口減少の抑制効果が現れている。これにより、「住んでみたい・住み続けたいまち」を実現するための効果が発現していると考えられる。	H24.6
	指標3	まちづくり活動団体参加人数	人	8	H18	30	H23	41 (H22)	41	○	あり なし	まちづくり活動推進事業の実施により、着実にまちづくり活動参加者数が増加している。これにより、自立・持続性のあるまちづくり活動が定着してきていると考えられる。	H24.6
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	美濃白鳥停車場線駅前区間の自動車交通量	台/12時	1,400	H22	目標値		1400 (H22)	1,200	効果発現要因(総合所見)		フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標2	道路整備によるまちなかの通過交通の低減と高質空間形成施設整備等による歩行者優先のまちづくりの展開により、美濃白鳥停車場線の自動車交通量の低減が図れている。これにより、歩いて楽しめる安全なまちづくりの効果が発現していると考えられる。											
4)定性的な効果発現状況	・本事業の実施に伴い、住民のまちづくりに対する意識が高まり、まちづくり活動への参加者が着実に増加する等、まちづくりに対する意欲が向上した。												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	・「都市再生整備計画 モニタリングシート」の作成 ・地区内人口減少率、まちづくり活動団体参加人数の収集および交通量調査実施によるモニタリングを実施		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ● モニタリング結果にもとづく数値指標の継続的計測。					
	住民参加プロセス	白鳥まちづくり委員会及び白鳥・為真道づくり委員会による各種団体や関係機関等との調整		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ● 今後も継続して実施する。					
持続的なまちづくり体制の構築	白鳥まちづくり委員会及び白鳥・為真道づくり委員会による各種団体や関係機関等との調整		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ● 今後も継続して実施する。						

